

武道家 列伝

文武両道を伝統とする本校は多彩な武道家たちを輩出している。卒業後もそれぞれの道でたゆまぬ稽古に励み、いまや各界の重鎮として後進の指導にあたっている先輩も多い。そんな同窓の武道家の活躍を探ってみた。

弓道

大沢 万治 (旧6回生)
弓道範士九段
東北弓道連盟会長
岩手県弓道連盟会長
日本弓道連盟理事・審議員

昭和一〇年、黄金時代を迎えた弓道部にあって、あこがれの神宮大会出場を決めた中心選手だった大沢万治。「東北の大沢」として全国に名高く、ずばぬけた行動力によって果たした弓道界への貢献は大変なものである。

剣道

三浦 正雄 (旧6回生)
居合道範士八段
剣道範士七段
岩手県剣道連盟理事
正修館道場館長

宮 静孝 (旧8回生)
剣道範士七段
岩手県剣道連盟監事
盛岡市剣道協会会長
谷藤 誠 (旧9回生)

剣道範士八段

岩手県剣道連盟副会長・事務局長
全日本剣道連盟評議員

吉田 金治 (旧12回生)
剣道教士七段

高橋 隆一 (新20回生)
剣道六段

岩手県剣道連盟理事
元岩手県警剣道部監督

中村 正行 (新21回生)

国際スポーツチャンバラ五段
国際スポーツチャンバラ宮古市支部長

中村 壽夫 (新22回生)
居合道七段



剣道六段

昭和一〇年、北日本中等学校剣道大会決勝戦で横手中学校の五人を一人で倒し、「名剣士」とうたわれた三浦正雄。現在、彼はみずからの主宰する正修館を基として活動しており、剣道・居合道界に欠かせない人物となっている。

また宮静孝は、盛岡市宮武道館において、昼夜、後進の指導にいそしんでいる。

谷藤誠は、県連の重鎮としてまさに東奔西走の毎日である。

谷水 松之助（新7回生）

柔道七段

盛岡中央高校柔道部監督

佐藤 正俊（新14回生）

柔道六段

岩手高校柔道部監督

盛岡市柔道協会理事長・事務局長

元ベネズエラ国柔道監督

佐々木武人（新14回生）

柔道六段

福島大教授

昭和一六年、神宮大会出場を果たした柔道部は黄金時代を迎え、「岩中・盛中」時代の到来として県の中学柔道界の話題をさらった。

当時の主力選手・赤坂俊夫は、現在、めんこいテレビ社長、赤坂病院院長。誰知らぬ者はない県の要人となっている。

貴重なポイントゲッター東根清蔵は、県連の役員として柔道界の発展に寄与している。

谷水松之助の活躍は前人未到のものと言わねばなるまい。すなわち、盛岡中央高校（旧竜沢高校）柔道部の監督として、一六回におよぶインターハイ出場を果たしたのである。

佐藤正俊の業績も異色である。彼は国外での柔道指導の夢断ちがたく、単身ベネズエラ国に渡り、モントリオールオリンピックには同国監督として参加したのであった。

柔道

赤坂 俊夫（旧9回生）

柔道七段

東根 清蔵（旧12回生）

柔道八段

岩手県柔道連盟理事

赤坂 祐三（旧13回生）

柔道七段

佐藤 幸郎（旧14回生）

柔道六段

空手道

狐崎 一彦（新31回生）

空手五段

国際格闘空手道連盟大道塾盛岡支部長

狐崎一彦の活躍も異色と言えるかもしれない。彼は極真空手にあきたらず、顔面攻撃も容認する激しい武道を求めて今日にいたっている。スネでバットを折る、あの過激な空手をご存じであろうか。真に強い武道を求めて日夜精進している。

最後に、現在は球技中心の時代であるが、昔の夢よもう一度と、後輩たちが武道に邁進する日の近からんことを祈る。

